

「専修学校フォーラム2018」 参加者アンケート結果

(平成30年2月8日、9日)

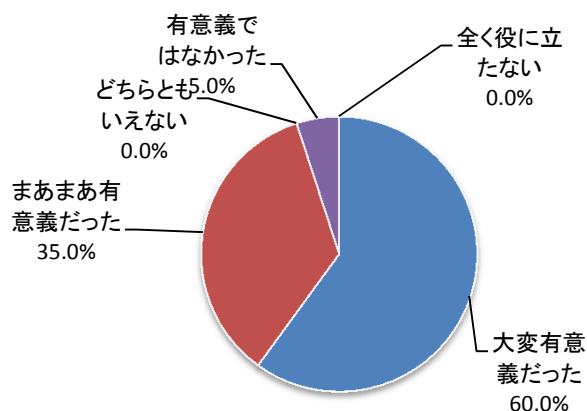
●参加者数: 98名
●回答者数: 24名
●回答率: 24.5%

一般社団法人全国専門学校情報教育協会

問1. 全体会について

1. 基調講演「教育×AI」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	12	60.0%
まあまあ有意義だった	7	35.0%
どちらともいえない	0	0.0%
有意義ではなかった	1	5.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	20	100.0%

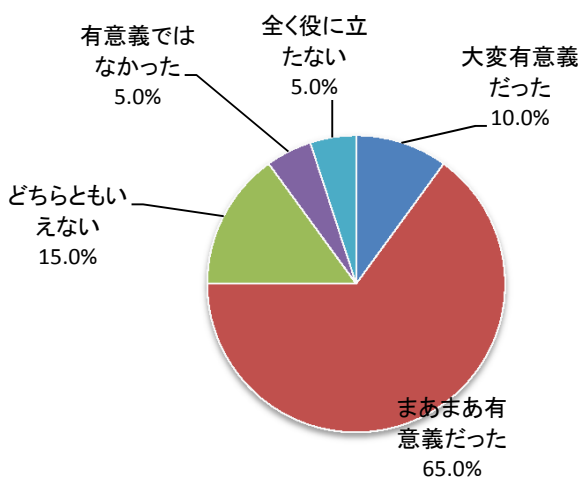


《 評価の理由 》

- ・オープンソースムーブメントの特徴のひとつをよく理解できた
- ・OSSを学ぶ必要があることがわかった
- ・学生の積極的な参加をうながすひとつの方法だと思いました。たいへん参考になりました
- ・期待はずれであった
- ・自身の経験を元にした能動的な貢献の重要性についてのお話しが良かった
- ・自発的に学習を行っていく学生を育て上げていくための知見が得られた
- ・第2次と第3次ブームの相違がわかった。第2次エキスパートシステムがその後どのように変化していったのか知りたかった
- ・大変勉強になりました
- ・「能動的な貢献」を教育の中でどう取り込むのか興味深かった

2. 一般社団法人全国専門学校情報教育協会活動報告 ①米国視察報告

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	2	10.0%
まあまあ有意義だった	13	65.0%
どちらともいえない	3	15.0%
有意義ではなかった	1	5.0%
全く役に立たない	1	5.0%
計	20	100.0%

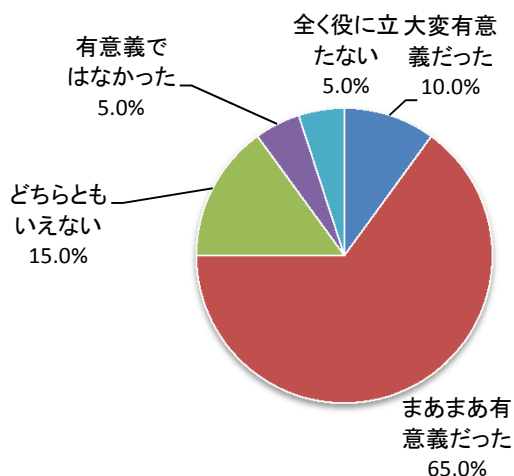


《 評価の理由 》

- ・アメリカの教育の動向が分かった
- ・海外では既に能動的な教育が一般であるのに、日本人の特質もあってなかなか進んでいない。私自身もできるだけ意識しているが、浸透しない
- ・海外の事例を知れたのは良かった
- ・能動的な授業の重要性がわかった

3. 一般社団法人全国専門学校情報教育協会活動報告 ②iBut 実施報告 iBut ～インターネット・ベーシック・ユーザー・テスト～

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	2	10.0%
まあまあ有意義だった	13	65.0%
どちらともいえない	3	15.0%
有意義ではなかった	1	5.0%
全く役に立たない	1	5.0%
計	20	100.0%

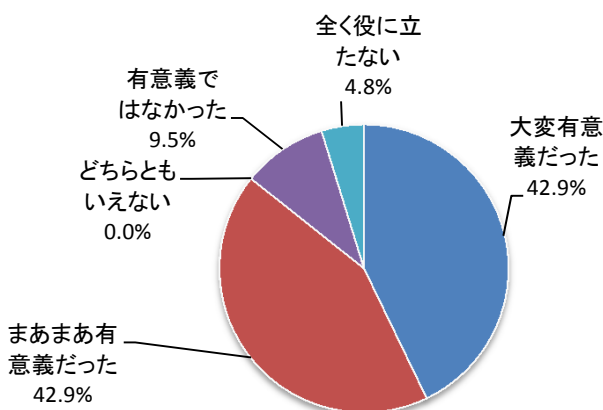


《 評価の理由 》

- ・iButの主旨は非常に大切である。むしろ情報系でない学科のリテラシーではないかと思う。
- ・改めてネット教育の基本的な位置づけの大切さがわかりました
- ・インターシップなどの企業連携、地域連携を行う際、特にIT系技術の学科でITリテラシー教育の必要性を改めて認識した
- ・インターネットの利用、モラルについて学ぶのに有用である
- ・できれば通年で入学前教員などによいかと思いました
- ・特徴、メリットが不明

4. パネルディスカッション「AI×教育」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	9	42.9%
まあまあ有意義だった	9	42.9%
どちらともいえない	0	0.0%
有意義ではなかった	2	9.5%
全く役に立たない	1	4.8%
計	21	100.0%



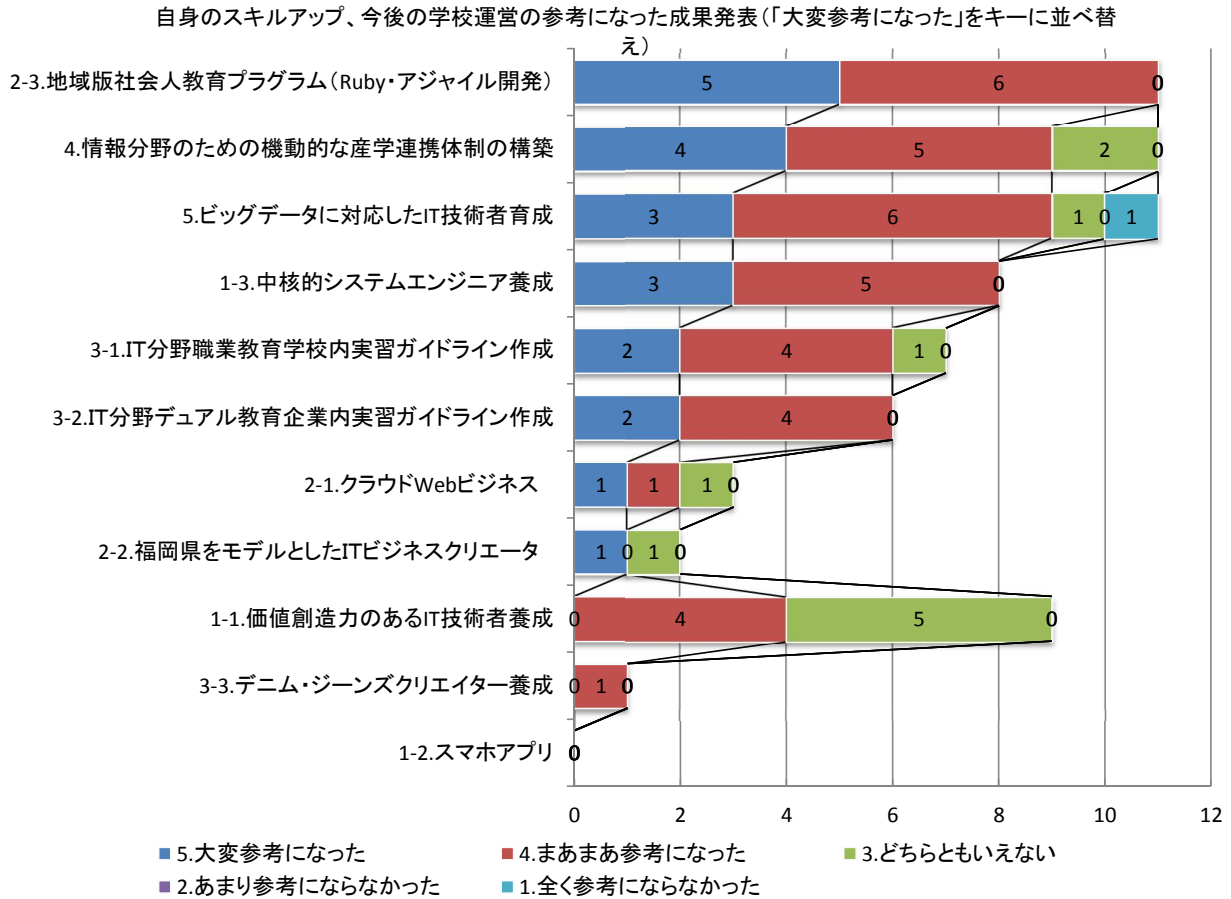
《 評価の理由 》

- ・AI教育に関するヒントとなった。今後の参与にしたい
- ・AIの実践現場(先端の)の様子が聞いて大変参考になった
- ・学校が持っているデータの見直しと「おもしろい」と学生に思わせる授業を考えたいと思った
- ・今後AIの普及がどのように教育を変革していくかがわかった。既に一部の学生に統計学を教えているが、これがどの程度AI社会でいかせていけるのか不安な点もある
- ・自己紹介がやや長いと思いました。実用的現実的な話が多く参考になりました。様々な可能性があることがわかりました
- ・新設コースの参考になった
- ・ディスカッションに広がりなかった
- ・パネルディスカッションは難しいなあ…と思いました

問2. 文部科学省プロジェクトの成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(「大変参考になった」をキーに並べ替え)



(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

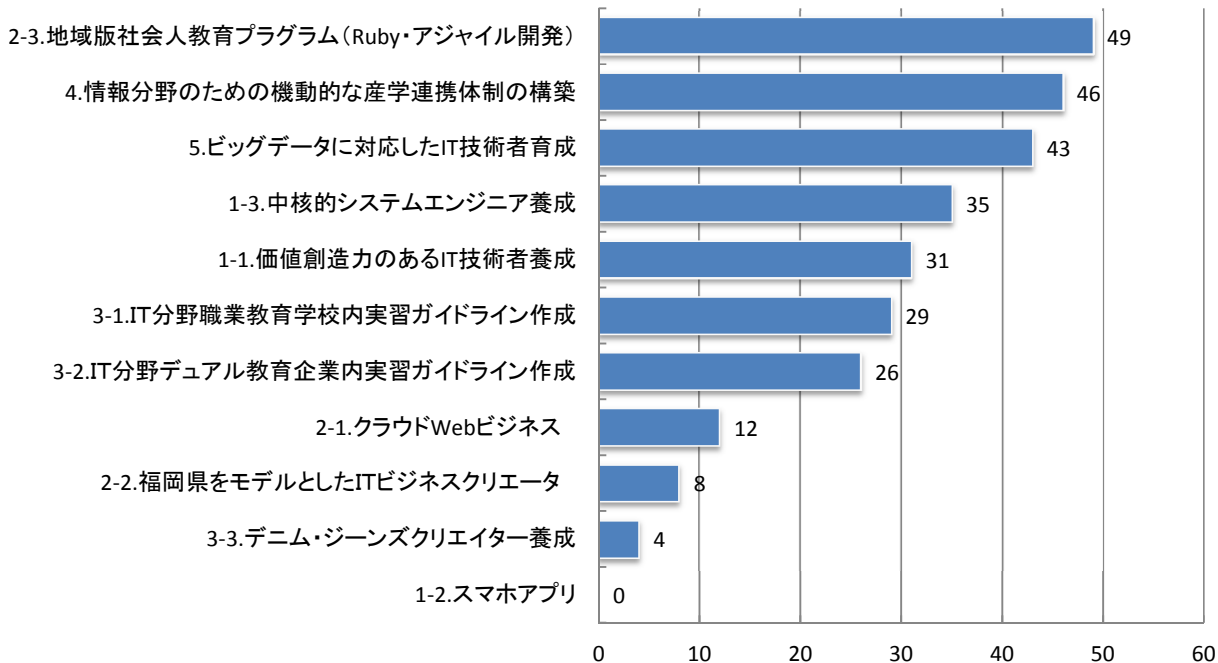
委託事業名	5. 大変参考になった	4. まあまあ参考になった	3. どちらともいえない	2. あまり参考にならなかった	1. 全く参考にならなかった
2-3.地域版社会人教育プログラム(Ruby・アジャイル開発)	5	6	0	0	0
4.情報分野のための機動的な産学連携体制の構築	4	5	2	0	0
5.ビッグデータに対応したIT技術者育成	3	6	1	0	1
1-3.中核的システムエンジニア養成	3	5	0	0	0
3-1.IT分野職業教育学校内実習ガイドライン作成	2	4	1	0	0
3-2.IT分野デュアル教育企業内実習ガイドライン作成	2	4	0	0	0
2-1.クラウドWebビジネス	1	1	1	0	0
2-2.福岡県をモデルとしたITビジネスクリエータ	1	0	1	0	0
1-1.価値創造力のあるIT技術者養成	0	4	5	0	0
3-3.デニム・ジーンズクリエイター養成	0	1	0	0	0
1-2.スマホアプリ	0	0	0	0	0

問2. 文部科学省プロジェクト成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(順位をポイント化した総合順位)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(順位をポイント化した総合順位)



(順位をポイント化した総合順位)

※ポイントとは→5.大変参考になった=5 4.まあまあ参考になった=4 3.どちらともいえない=3
2.あまり参考にならなかった=2 1.全く参考にならなかった=1

委託事業名	5.大変参考になった	4.まあまあ参考になった	3.どちらともいえない	2.あまり参考にならなかった	1.全く参考にならなかった	総合ポイント	総合順位
	(5p)	(4p)	(3p)	(2p)	(1p)		
2-3.地域版社会人教育プログラム(Ruby・アジャイル開発)	25	24	0	0	0	49	1
4.情報分野のための機動的な産学連携体制の構築	20	20	6	0	0	46	2
5.ビッグデータに対応したIT技術者育成	15	24	3	0	1	43	3
1-3.中核的システムエンジニア養成	15	20	0	0	0	35	4
1-1.価値創造力のあるIT技術者養成	0	16	15	0	0	31	5
3-1.IT分野職業教育学校内実習ガイドライン作成	10	16	3	0	0	29	6
3-2.IT分野デュアル教育企業内実習ガイドライン作成	10	16	0	0	0	26	7
2-1.クラウドWebビジネス	5	4	3	0	0	12	8
2-2.福岡県をモデルとしたITビジネスクリエイター	5	0	3	0	0	8	9
3-3.デニム・ジーンズクリエイター養成	0	4	0	0	0	4	10
1-2.スマホアプリ	0	0	0	0	0	0	11

②参考になった、印象が強かった理由:

■1-1.

- ・様々な取り組みや事例が理解できた
- ・企業においては、経営者と従業員との乖離が問題となっている中で、大変適当なテキストを開発されたと思う。開発項目が理論・ケーススタディ・フィードバックと整理されているところが良かった

■1-2.

- ・機械学習のホームページをご紹介いただけただけのは良かったです
- ・レベルが高い分野ではあるが、切り口を工夫すればカリキュラムとして成り立つと感じたため。教材については是非使ってみたいと思う。
- ・新しい分野一切り口の面白さに大変驚いた
- ・トップゲートの満岡様のプレゼンが良かったです。Googleサービスのもが参考になりました
- ・AI活用、実践はハードルが高いと感じた。Eラーニングコンテンツを参考にしたい

■1-3.

- ・IoTプログラミングの授業の改善案が思いついたため
- ・専門学校のカリキュラムの中で扱っている部分をカバーしていると感じたため
- ・様々な取り組みや事例が理解できた
- ・IoT時代のSE養成のアプローチ例を参考にしたい

■2-1.

- ・アジャイル開発の目的の気づき(成功する為の手法、人重視、経験)

■2-2.

- ・カリキュラム・教材・講座が全て内製化させていたので、説得力が強かったため
- ・各キーワード:コト(経験)、VI→VX

■2-3.

- ・最新の情報を取り入れた実践的な教材となっている
- ・Ruby on Railsとアジャイル開発で短期間で開発が可能となること
- ・アジャイル開発の目的の気づき 変化への追随→変化できる開発→拡張性Ruby、生産性Rails
- ・社会人教育用の内容は人をあつめること、内容、レベルとも非常に難しく、その中でRubyの普及を試みたことは、今後の「社会人学び直し教育事業」に1つの参考になった

■3-1.

- ・学校内実習の実態を知ることが出来た

■3-2.

- ・教育支援ツール、企業研修の問題点
- ・様々な取り組みや事例が理解できた
- ・「デュアル体制」の構築への意味づけに賛同したい

■4

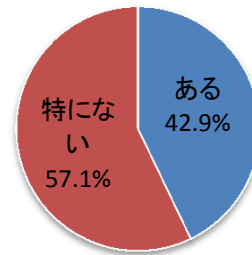
- ・オープンイノベーションの認識の必要性を再考させられた
- ・IT人材の育成の方向性として「問題解決」が多大である
- ・ICT関連技術の進展が非常に早く、近未来に求められる技術の内容がまだ企業でもつかめていないことが判った
- ・AIの問題解決、具現化、活用のために専門学校生をどのレベルまで教育すべきかを各産業、企業と相談して定めようと思うことができたため
- ・短期間の学習のため、分野を限定した教育が必要
- ・教員側にたった情報セキュリティ、AI、ビッグデータに対する教育の在り方の説明が大変よかった。

■5

- ・ビッグデータに関する技術で専門学校で担当する内容が良く判った
- ・具体的な教材があり、参考になった
- ・AI、ビッグデータ処理について理解できた。今後このような技術をどのように教育に落とししていくか、教員の教育はどうするか問題
- ・ビッグデータの収集、分析、活用の切り分けが認識できた
- ・パッケージ(アナコンダ)の活用の方向が理解できた

問3. 今後、文部科学省プロジェクト等で取り組みたい事業やテーマ

NO	回答	回答数	%
1	ある	3	25.0%
2	特にな い	4	75.0%



■具体的な内容:

- ・AIやIoT等の最新・先端技術のカリキュラムへの反映。教員のキャッチアップ
- ・最新の技術に関する教員研修
- ・社会人基礎力(コンピテンシー)

■本会からの情報提供や連携校の紹介などのご希望がありましたら具体的にお知らせください。

- ・1-1のKEIアドバンステスト
- ・1-3の中核的システムエンジニア養成の日本電子専門学校
- ・引き続き、AI、IoT、ビッグデータ関連の技術動向や教員研修など
- ・セキュリティ。人材育成に関する教員研修など
- ・今回のAI、ビッグデータを中心とした教育の在り方は大変時代にマッチし非常に良かった。
- ・これらのAI、IoT、ビッグデータ等に関するテーマはしばらく続くのではないかと思っている。
- ・セキュリティ。人材育成に関する教員研修など
- ・2-3の資料を送付してほしい

問4. 御校で課題となっている事項やお悩みの点、希望する研修テーマなど

- ・IT計教員のスキルアップのための技術研修or企業内研修
- ・メンタルヘルス、学生サポートに関する教員が心得ておくべき事項
- ・東南アジア系留学生の教育に関する事例紹介や情報共有、特に今後の留学生対応の在り方について
情報支援の場
- ・今現在は専門学校と産業界との接続に対する教育、人材育成は確かに問題はあるが、入学してくる学生がAIやIoTの時代で受けた教育と専門学校教育の接続に困っているのではないか
- ・各校のAI教育(IoT、ビッグデータ、ロボット)の現状を知りたい
- ・社会人基礎力(コンピテンシー)
- ・IT系(システム開発・ゲーム)企業での外部研修(地方の企業では受け入れは難しいため)
- ・学生対応、保護者対応(ハラスメントとくられる事案)

以上